

IEEE Fellow Nominator (推薦人) の方に

1. はじめに

御存知の通り、IEEE Fellow は IEEE の会員資格の中で最高位に属するもので、これは Senior Member とは異なり、自薦は受け付けられません。従って、推薦人 (以下 Nominator とします) の方に推薦の手続きを取っていただくかねばなりません。被推薦者の資格としては、

- ・ Senior Member の資格を有すること
- ・ 5年以上の IEEE 会員資格を持つこと (グレードは問われません)

だけです。無論 Nomination form と、その他の推薦人の推薦書 (Reference document) が Fellow Committee によって審査され、合格すると晴れて Fellow の称号が与えられることとなります。

手続きの詳細については、IEEE 本部のホームページのリンク

<http://www.ieee.org/web/membership/fellows/index.html>

をご参照下さい。例年締切は 3 月 1 日となっています。最近では Web で書類提出ができるので、手続きがずいぶん簡単になりました。

2. Nomination form の準備の仕方について

審査において最も重要な役割を果すのが、Nomination form とその他の推薦人による Reference letter (document) です。後者をどうするかは、Reference の人の判断に依りますので、どなたに Reference になってもらうかという判断以外には、コントロール出来る場所は殆どありません。したがって主として注意を集中すべきは Nomination form の出来如何ということになります。

この Nomination form の出来が悪かったために、Fellow 昇格を逃したという例も過去に幾つか見てきました。これについて、いくつかのポイントを以下に述べますので、ご参考にしていただければ幸いです。

2.1 Proposed citation

被推薦者の業績がよく現れているものを採用して下さい。日本人の場合よくあることですが、すべての場合を包含しようとして、あまりに大きな (抽象的な) タイトルになってしまっていることがあります。これが具体性を欠くと大きなマイナスになりかねません。各 Society のホームページには最近 Fellow に昇格された方の Citation が載っていると思いますので、参考にされると良いと思います。

2.2 業績カテゴリーの選択

大まかに言って、大学の研究者ならば **Research Engineer/Scientist** または **Educator** を、企業の研究所の方ならば **Technical Leader** か **Application Engineer/Practitioner** を選ばれるのが標準的だと思います。無論個々の業績によって違いがあるので、あくまで一般論ですが。

2.3 項目 6: **Individual Contributions**

Nomination Form で最も重要な箇所と言って差し支えないでしょう。この部分の説得力が **Nomination** の成否を分けると言っても過言でないかも知れません。6a, 6b の2つの部分に分かれています。

6a. 推薦者と候補者の関係

これは 100 ワード以内と限られているので、焦点がぼけるおそれは少ないでしょう。注意すべきは、なるべく具体的に述べることで、抽象的な言い回しに傾くと、**nominator** が候補者（被推薦人）をどの程度知っているのか疑われることになりかねません。

6b. 候補者（被推薦人）の業績の特徴

この箇所は多くの場合最も重要となります。**Fellow committee** のメンバーは忙しい人が多く、業績の内容を仔細に読み、検討する時間の無い人がほとんどです。したがって、この 6b の項で、候補者の業績の特徴、意義を簡潔明瞭に訴える必要があります。

ところが実際はこれとは逆に、この部分が長々と説明され、かつ結論が最後にあるという例が少なくありません。これでは現実には最後まで読んですらもらえないということにもなりかねません。**Committee** のメンバーの読む **Nomination forms** は相当な数に上るわけで、一人一人の業績の説明にそれほどの時間とエネルギーをかけてくれるとは期待できないわけです。

- i) 要点としては、まず最初に結論を持つてくること。例えば
Dr. XYZ has made a fundamental contribution in ... とか
Dr. XYZ's most significant contribution is ...
などです。
- ii) 特徴的な業績が何種類かに分かれる場合は、箇条書きにするのも良いと思われます。
- iii) **Nomination** を書いていると、どうしても業績の内容を詳しく説明して分かってもらいたいという心理に陥りがちで、しかしその結果くどい

説明になってしまうことが少なくありません。しかし上記の事情を考えると、これは逆効果になります。最悪の場合、ざっと流して読み飛ばされてしまうことも多いでしょう。

- iv) 日本人の英語に多くみられる傾向ですが、間接話法的、あるいは受身形が多く、インパクトに欠けるうらみがあります。出来るだけ、直接的に、ストレートに、「候補者はこれをなした、その結果...が可能となった、あるいはかくかくの影響を与えた。」のように書いて下さい。
- v) 英語の proofreader を依頼されるのも良いかと思います。

2.4 References について.

これは Nominator 以外の推薦人で、これがどのようなメンバーであるか、どういう推薦文を書いてくれるかで、むしろ Fellow 昇格が左右されるほどの重要性を持ちます。この点では 6.b 項と同じ、あるいはそれ以上の重要性を持ちます。ただ注意すべき点があります。

単に References に有名人を揃えても、その推薦文の中身がおざなりなものであっては却って逆効果です。したがって候補者（被推薦者）の業績をよく知って熱意を持って書いてくれる人を選ぶべきで、単に有名で引き受けてくれるからという理由で依頼するのは問題です。有名な人ですと、かなりの数の Fellow 推薦文を依頼されるため、必然的に優先順位をつけて、上位数名以外は適当に処理するという事も生じます。

とにかくこの References にどういう人を選ぶか、どういう人に依頼するかは、審査において重要な役割を果たしますので、十分注意をして人選をしていただきたいと思います。事前に本人に連絡をとっておくのも必要でしょう。

3. 最後に

Nomination form の作成について、私の経験から幾つかのポイントを纏めてみました。ご参考になれば幸いです。

IEEE 関西セクション Nomination Committee Chair
山本 裕 (京都大学)